

**(1) 開催県挨拶・高知県が進める「小さな拠点」づくりの概要**

尾崎 正直（高知県知事） 「集落活動センターの取組について」

**(2) 基調講演 『農山村地域の再生に向けて ～「小さな拠点」づくりへの期待～』**

小田切 徳美（明治大学 農学部 教授）

**(3) 事例報告**

①高知県四万十市（大宮集落活動センターみやの里）

【発表者】 竹葉 傳（大宮地域振興協議会 会長）

②島根県隠岐の島町（社会福祉法人ふれあい五箇）

【発表者】 池田 眞理香（社会福祉法人ふれあい五箇 施設長）

③広島県三次市（川西郷の駅づくり推進委員会）

【発表者】 平田 克明（川西郷の駅づくり推進委員会 委員長）

**(4) パネルディスカッション 『「小さな拠点」がつなぐ手作りの地域運営』**

コーディネーター：藤山 浩（島根県中山間地域研究センター 研究統括監）

パネリスト：竹葉 傳（大宮地域振興協議会 会長）

池田 眞理香（社会福祉法人ふれあい五箇 施設長）

平田 克明（川西郷の駅づくり推進委員会 委員長）

藤井 健（国土交通省 大臣官房審議官（国土政策局））

尾崎 正直 (高知県知事)

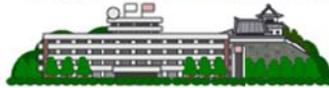
－「小さな拠点」づくりフォーラムin高知－

## 高知県が進める「小さな拠点」づくりの概要 ～集落活動センターの取組について～



高 知 県

平成26年2月24日



1

## 過疎地域の現状と課題



2

# ■ 過疎地域の人口減少と高齢化の実態

## ● 人口の推移



◇ 過疎地域の人口は、昭和35年から継続的に減少。50年間で約20万人も減少(△49%)

## ● 生産人口の推移



◇ この30年間で過疎地域の生産人口は半減(△43%)  
199,180人(S55)→114,729人(H22)

## ● 過疎地域の高齢化の推移



◇ 本県の高齢化率は28.8%。【全国平均 23%。全国で3番目の高率】  
◇ 過疎地域の高齢化率は37.3%で、県平均より更に8.5%も高い。

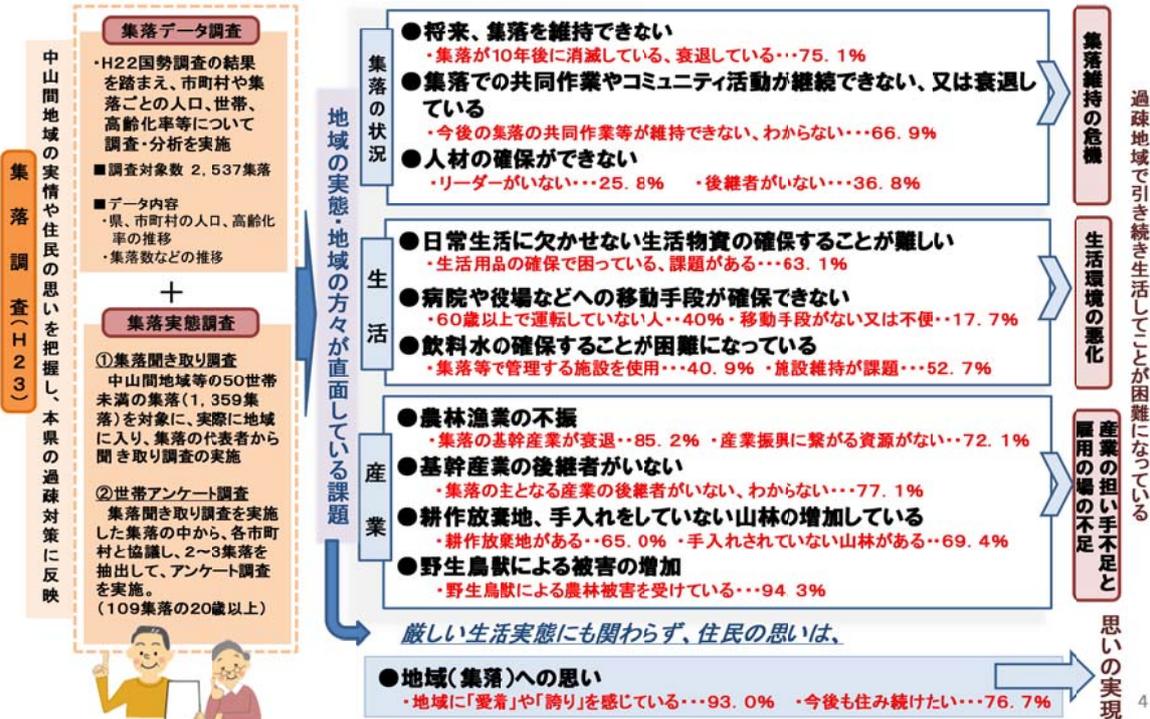
## ● 過疎地域の若年者の推移



◇ 30年間で若年者数は約4万人も減少。(△64%)  
60,703人→21,829人

# ■ 過疎地域の課題

## 集落調査から見えてきた課題

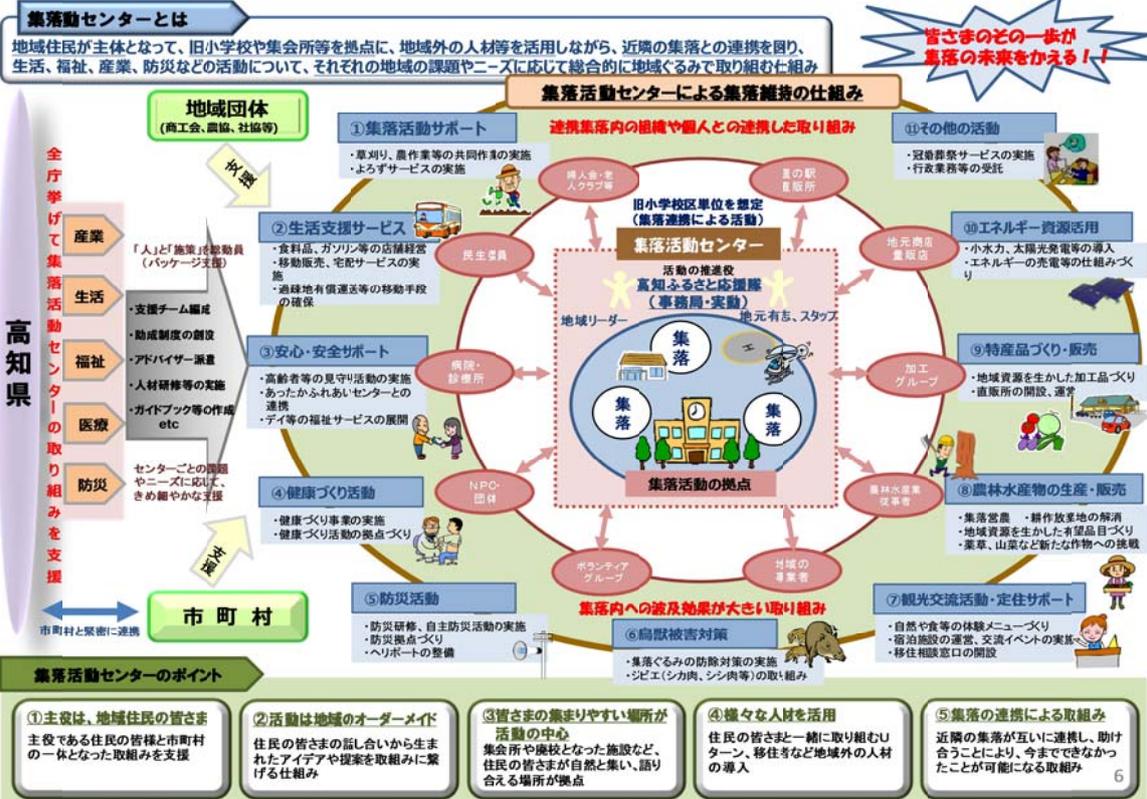


# 集落活動センターの取組について



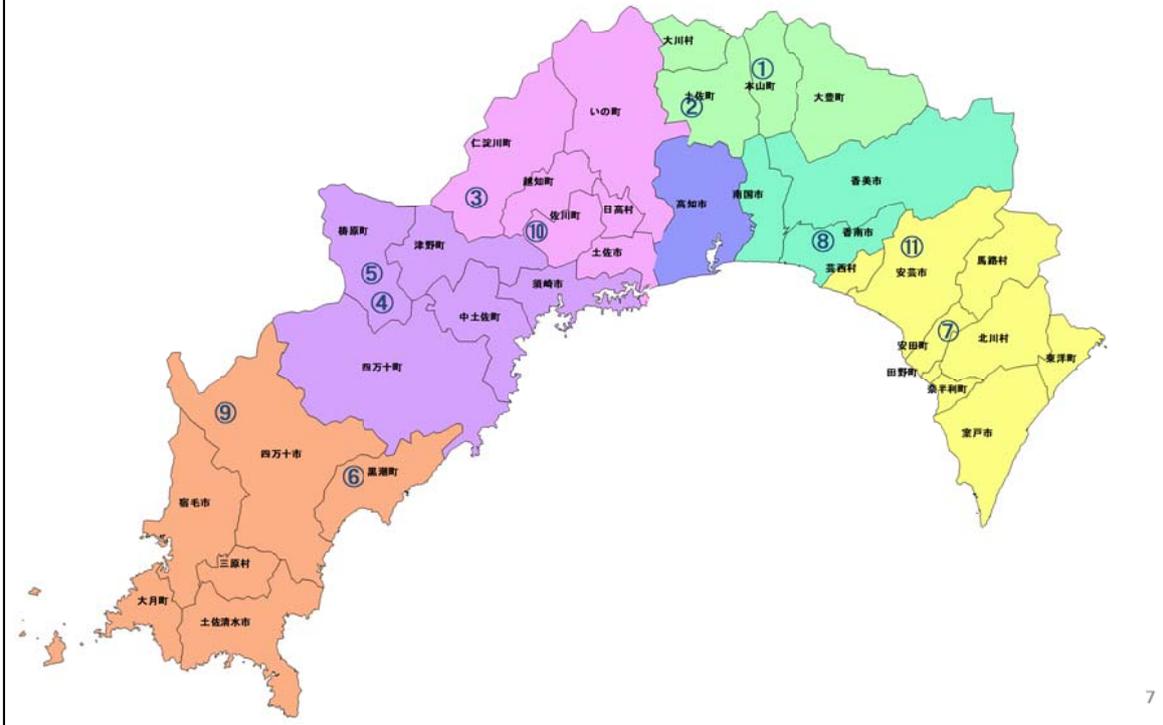
5

## 集落活動センターの概要



6

## ■ 集落活動センターの設置状況（ブロック別）



## ■ 集落活動センター 一覧表

NO.	市町村名	地区名	構成集落 (集落数)	人口	世帯数	高齢化率	開所時期	名称 (拠点施設)	実施主体 (事務局スタッフ)
①	本山町	汗見川	立野、坂本、屋所、沢ケ内、瓜生野、七戸(6)	206	100	57.8	H24.6.17	集落活動センター「汗見川」 (汗見川ふれあいの郷 清流館)	汗見川活性化推進委員会 (高知ふるさと応援隊1名)
②	土佐町	石原	有間、峯石原、西石原、東石原(4)	391	190	46.5	H24.7.1	集落活動センターいしはらの里 (石原コミュニティーセンター他)	いしはらの里協議会 (高知ふるさと応援隊2名)
③	仁淀川町	長者	木半夏、宮首、中ノ瀬上、中ノ瀬下、古田、石井野、打直、西古城山、東古城山、寺野、竹谷、宮ヶ坪、日鉄宮ヶ坪、五味谷(14)	698	297	35.0	H24.12.1	集落活動センターだんだんの里 (だんだんの里)	だんだんくらぶ
④	梶原町	松原	大向、中平、上久保谷、下久保谷、松原、島中(6)	302	153	61.9	H25.1.12	集落活動センター「まつばら」 (松原ふれあいセンター他)	集落活動センター「まつばら」推進委員会 (高知ふるさと応援隊2名 *「はつせ」との兼務を含む)
⑤	梶原町	初瀬	上折渡、下折渡、影野地、大野地、佐渡、初瀬本村、仲久保(7)	145	69	49.7	H25.1.12	集落活動センター「はつせ」 (鷹取の家他)	集落活動センター「はつせ」推進委員会 (高知ふるさと応援隊2名 *「まつばら」との兼務を含む)
⑥	黒潮町	北郷	大屋敷、本谷、大井川(3)	142	66	49.3	H25.3.5	集落活動センター北郷 (旧北郷小学校)	北郷地区協議会 (高知ふるさと応援隊1名)
⑦	安田町	中山	間下、内京坊、正弘、別所、中ノ川、西ノ川、与床、小川、中里、船倉、瀬切、日々入(12)	594	285	46.0	H25.4.1	集落活動センターなかやま (旧中山小学校他)	中山を元気にする会 (高知ふるさと応援隊1名)
⑧	香南市	西川	口西川、中西川(2)	418	178	47.5	H25.4.12	西川地区集落活動センター (西川公民館)	西川地区集落活動センター推進協議会 (高知ふるさと応援隊1名)
⑨	四万十市	大宮	大宮上、大宮中、大宮下(3)	294	136	47.6	H25.5.26	大宮集落活動センターみやの里 (樺大宮産業)	大宮地域振興協議会 (高知ふるさと応援隊3名)
⑩	佐川町	尾川	高平、下郷、西山耕、中村、山田、堂野々、松ノ木、古畑、峰(9)	910	419	42.9	H25.9.19	集落活動センターたいこ岩 (ふれあいの里尾川)	尾川地区活性化協議会 (高知ふるさと応援隊1名予定 (H26.5月～))
⑪	安芸市	東川	入河内、黒瀬、大井、古井、別役(5)	174	107	76.4	H25.9.29	東川集落活動センターかまん東川 (東川公民館)	東川地域おこし協議会 (高知ふるさと応援隊1名)

## ■ 集落活動センターの取組の支援策

### (1) 資金面での支援

● 集落活動センター推進事業費補助金(25年度予算額 155,000千円(対前年度比 55,000千円増))

【補助内容】

- ① 集落活動センターの取組みに必要な経費(ハード・ソフトとも)への支援
- ② センターの設置や運営に係る活動従事者(高知ふるさと応援隊)の person 費を含む活動経費への支援

【補助事業者】 市町村 【補助率】 市町村事業費の1/2以内

【事業実施主体】 ① 市町村及び集落組織、地域団体、NPO等 ② 市町村

【補助上限額】 ① 30,000千円/1箇所(3年間) ② 1,000千円/1人

【補助期間】 ① 最長3年間 ② 最長4年間(準備期間1年+活動期間3年)

### (2) アドバイザーの派遣

● 集落活動センターの立ち上げや運営等について、総合的に助言を行う県のアドバイザー等を導入  
(集落活動センター推進アドバイザー: 中山間対策にかかる専門家等6名を委嘱)

### (3) 研修会等の開催

● 予定地区の住民や市町村職員、高知ふるさと応援隊等を対象にした研修会や交流会等の開催  
(25年度はブロック別の研修会も開催)

### (4) 支援チームによる支援

● 集落活動センター支援チームによる支援【市町村ごとの支援チームを編成し、全庁を挙げた支援を展開】  
・センター実施地区の活動の充実、強化や、準備地区の円滑な立ち上げに向けた支援  
構成メンバー: 中山間地域対策課、活動に関連する課室、地域支援企画員(総括)・地域支援企画員、関係出先機関等

### (5) 情報提供による支援

● 集落活動センターの普及、拡大に向けた総合的な情報の提供  
→「集落活動センター支援ハンドブック」の作成

【内容】 集落活動センターの概要、取組みに対する支援策、自立に向けた成功イメージ、センターの取り組み事例

## ■ 今後の集落活動センターを核とした中山間対策の展望

### ○ 集落活動センターの立ち上げ

【10年間】 130ヶ所 開所が目標  
(市町村の意見、要望を反映し設定)

集落維持・再生の目的達成のバロメーター

### ○ 高知ふるさと応援隊の導入

【10年間】 1,000人 導入が目標  
(年間 3人程度×34市町村×10年)

年間100人



### 中山間地域の課題解決の拠点

- 地域の支え合いの拠点
  - ・福祉、健康づくり、防災・防犯等の活動
- 地域の活性化の拠点
  - ・産業づくり、移住受入、交流、文化、エネルギー資源活用等の活動



### 県の施策を重点投資

あったかふれあいセンター(小規模多機能施設)ヘリポートの整備、太陽光発電、移住促進、交流・観光、特産品づくり、情報等の基盤整備など支援事業の重点的な導入

### 県の計画・ビジョン等と連携

「産業振興計画」、「日本一の健康長寿県構想」などの県の基本計画や、南海トラフ巨大地震対策等の重点プロジェクト等とのタイアップ

全庁挙げた総合的な支援を展開

来年度

地域外から“新しい視点やアイデア”を取り入れることができる仕組みづくり

# ■最後に！！

## ○中山間対策は「待ったなし」の喫緊の課題

この10年間で正念場・・・10年先では、手遅れとなってしまう

**10年後を見据えた仕組みづくりが不可欠**

◆人口減少、高齢化の進行の一層加速化で、集落が衰退、消滅の恐れ

◆地域づくりの中心的役割を担っている団塊の世代等が高齢化



高齢化  
人口減少

中山間地域対策の抜本強化

課題先進県

高知県の元気づくり、地域の活性化に向けた課題解決先進県を目指す！！

全国に先駆け、具体的な事例や解決策(処方箋)を作り上げる



課題解決先進県としてモデルを確立



全国へ情報発信

国等への政策提案

11

(2) 基調講演 農山村地域の再生に向けて ～「小さな拠点」づくりへの期待～

小田切 徳美 (明治大学 農学部 教授)

「小さな拠点」フォーラム in 高知

農山村地域の再生に向けて  
—「小さな拠点」への期待—

小田切 徳美 (明治大学)  
※国土交通省「集落地域における「小さな拠点」  
形成推進に関する検討会・座長

1

目次

- I. 農山村の実態
- II. 農山村再生に向けての地域戦略
- III. 新たな戦略としての「小さな拠点」
- IV. おわりに

2

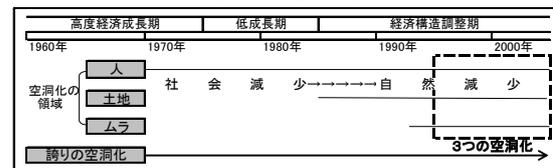
I. 農山村の実態

3

I. 農山村の実態

1. 「3つの空洞化」の段階的進行

図 中山間地域における空洞化の進展(模式図)



- 各キーのキーワード=造語 ←強いインパクト
- 人の空洞化 →「**過疎**」
- 土地(利用)の空洞化 →「**中山間地域**」
- ムラの空洞化 →「**限界集落**」

4

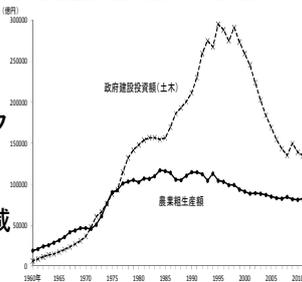
I. 農山村の実態

2. 地域経済の後退

- 農業と公共事業
- ・農業粗生産額 = 1984年がピーク
- ・公共事業 = 1990年代急増 → 1990年代末急減

※90年代末からは  
両者がともに減少

図1 農業粗生産額と政府建設業投資額(土木事業)の推移(全国、1960年～2011年)



注: 資料は農業粗生産額は農林水産省「生産所得統計」、政府建設投資額は国土交通省「建設投資見込み」、再、建設投資額(2010年～2011年度は「見込み」)。

5

I. 農山村の実態

■農家単位での所得動向

- ・副業的農家の所得減少
- ←農外所得の減少がリード

表1 農家の形態別に見た所得構成およびその変化(全国、1998～2003年)

	農家計		主業農家		準主業農家		副業的農家		
	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	
2003年	農業所得	1,103	14.3	4,744	62.6	852	21.9	332	4.40
	農外所得	4,323	56.1	851	11.2	5,568	65.8	4,773	63.50
	年金等	2,286	29.6	2,061	27.2	2,042	24.1	2,408	32.10
	農家総所得	7,712	100.0	7,576	100.0	8,462	100.0	7,513	100.0
1998年～2003年の増減率	農業所得	-11.5		-12.1		-25.9		32.0	
	農外所得	-18.6		-16.2		-10.5		-21.1	
	年金等	7.7		16.9		2.0		6.7	
	農家総所得	-12.1		-6.3		-9.7		-12.2	

資料: 農林水産省「農業経営動向調査」(各年版)より作成。

※コミュニティ再生と同時に経済再生が要請

6

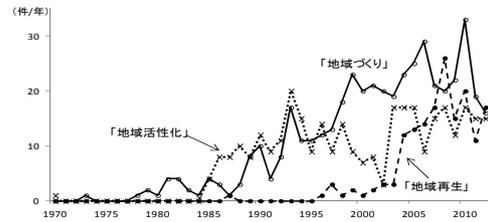
## II. 農山村再生に向けての地域戦略

7

## II. 農山村再生に向けての地域戦略

- バブル経済の崩壊（1990年代初頭）
- ・バブル崩壊によるリゾート開発の撤退
- ※「地域活性化」から「地域づくり」へ

図 タイトル別地域関係図書の出版件数の推移（1970～2012年）



注：1）資料＝国立国会図書館蔵書検索・申込システムによる検索結果（東京本館の日本語図書が対象）。  
2）「出版者」が中央省庁や地方自治体であるものは除外した。

8

## II. 農山村再生に向けての地域戦略

### ■地域づくり

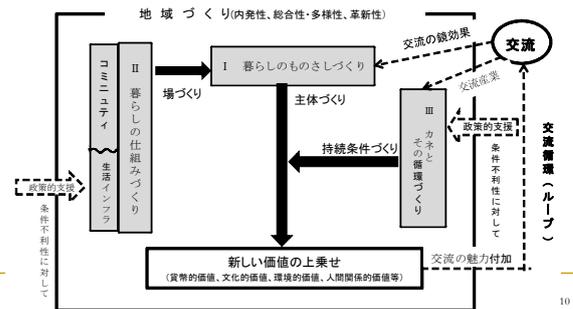
- ・地域づくり＝「時代にふさわしい新しい価値を、地域それぞれの特性のなかで見出し、地域に上乗せする」（宮口侗迪氏・地理学）
- ・その意味
  - ①内発性
  - ②総合性・多様性
  - ③革新性
 ⇒各地の実践の積み重ねが始まる

9

## II. 農山村再生に向けての地域戦略

### ■地域づくりのフレームワーク

- ※「主体」「場」「持続条件」の3要素の組み立て  
農村地域における「地域づくり」のフレームワーク



10

## II. 農山村再生に向けての地域戦略

- ①主体形成（「暮らしのものさしづくり」）
  - ・地域づくりの最重要要素
  - ＝地域の課題解決に対する当事者意識
  - 自らの暮らしをめぐる独自の価値観の再構築
  - ＝「暮らしのものさしづくり」
  - ex. 地域の歴史・文化・自然（郷土料理、景観、住民の人情）
- ・その契機
  - 1) 公民館運動
  - 2) 地域づくりワークショップ（地元学）

11

## II. 農山村再生に向けての地域戦略

- ②場の形成（「暮らしの仕組みづくり」）
  - 1) ソフト＝コミュニティの再生  
集落の位置づけが重要
  - 2) ハード＝生活インフラの整備  
医療、教育、生活交通等
- ③持続条件の形成（「カネとその循環づくり」）
  - 1) 公共事業に依存しない地域産業の育成
  - 2) 地域内再投資（岡田知弘氏）

12

## II. 農山村再生に向けての地域戦略

- 都市農村交流と地域づくりー二つのルートー
  - 1) 交流の鏡効果→「暮らしのものさしづくり」
    - ・都市住民が「鏡」＝農村の「宝」を写し出す
      - 農村サイド（ホスト）の再評価
  - 2) 交流産業→「カネとその循環づくり」
    - ・ホストとゲストの「学び合い」が付加価値
      - 高いリピーター率＝成長産業の可能性
- ⇒地域づくりの「交流循環」
  - ・上記を通じて、「新しい価値」の更なる上乗せ
- ※都市農村交流は地域再生のための戦略的活動

13

## III. 新たな戦略としての「小さな拠点」

14

## III. 新たな戦略としての「小さな拠点」

- なぜ、今「新たな戦略」か？ー相反するベクトルー
  - ①「2015年問題」(藤山浩氏)
    - ・昭和ヒトケタ世代の完全リタイア
      - 加速化する「下りのエスカレーター」
  - ②若者を中心として「田園回帰」の流れ
    - ・移住・定住の動き
    - ・地域おこし協力隊の現員＝976名
      - 「上りのエスカレーター」への乗り換えの好機
- ⇒※新たな段階の地域戦略としての「小さな拠点」  
＝エスカレータの乗り換えのための「踊り場」づくり

15

## III. 新たな戦略としての「小さな拠点」

地域おこし協力隊の活躍先

○隊員数175名 318自治体(4府県314市町村) (平成25年度特交ベース)

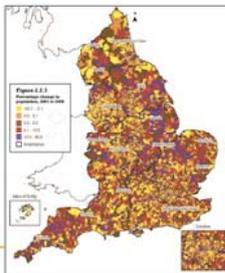
自治体	隊員数	職種	活動内容
北海道	1	観光	観光客の誘致
青森県	1	観光	観光客の誘致
岩手県	1	観光	観光客の誘致
宮城県	1	観光	観光客の誘致
秋田県	1	観光	観光客の誘致
山形県	1	観光	観光客の誘致
福島県	1	観光	観光客の誘致
茨城県	1	観光	観光客の誘致
栃木県	1	観光	観光客の誘致
群馬県	1	観光	観光客の誘致
埼玉県	1	観光	観光客の誘致
千葉県	1	観光	観光客の誘致
東京都	1	観光	観光客の誘致
新潟県	1	観光	観光客の誘致
富山県	1	観光	観光客の誘致
石川県	1	観光	観光客の誘致
福井県	1	観光	観光客の誘致
山梨県	1	観光	観光客の誘致
長野県	1	観光	観光客の誘致
岐阜県	1	観光	観光客の誘致
静岡県	1	観光	観光客の誘致
愛知県	1	観光	観光客の誘致
岐阜県	1	観光	観光客の誘致
愛知県	1	観光	観光客の誘致
三重県	1	観光	観光客の誘致
滋賀県	1	観光	観光客の誘致
京都府	1	観光	観光客の誘致
大阪府	1	観光	観光客の誘致
兵庫県	1	観光	観光客の誘致
奈良県	1	観光	観光客の誘致
和歌山県	1	観光	観光客の誘致
徳島県	1	観光	観光客の誘致
香川県	1	観光	観光客の誘致
愛媛県	1	観光	観光客の誘致
高知県	1	観光	観光客の誘致
福岡県	1	観光	観光客の誘致
佐賀県	1	観光	観光客の誘致
熊本県	1	観光	観光客の誘致
大分県	1	観光	観光客の誘致
鹿児島県	1	観光	観光客の誘致
沖縄県	1	観光	観光客の誘致



16

## III. 新たな戦略としての「小さな拠点」

- <補足>英国の「逆都市化」現象
  - ・都市化から農村への人口還流
  - ＝1970年代から続く潮流で、今や規範



17

## ・農村還流した人々が作る英国流「小さな拠点」

- コミュニティ・ショップ(地域共同売店)
- カフェ兼売店(個人営業)



18

・ルーラル・ハブ(仮称) 民間(農場屋敷地内)のケース



会社による設立のケース



### Ⅲ. 新たな戦略としての「小さな拠点」

#### ■「小さな拠点」の意味

##### ①「拠点」とは？

「拠点」=活動のよりどころとなる所(『広辞苑』)

##### <二重の意味>

- ・ハード的よりどころ  
=地域空間の中心を明確化
- ・ソフト的よりどころ  
=新たな地域コミュニティの創造  
(束ねる=ふるさと集落圏)

### Ⅲ. 新たな戦略としての「小さな拠点」

##### ②「小さな」とは？

- ・「小さいからこそ」哲学の潮流  
スモール・イズ・ビューティフル(シューマッハー)  
里山資本主義(藻谷浩介氏)……
- ・「小さいからこそ」メリット  
⇒パネルディスカッションへ

※『『小さい』の三段活用』を認識しよう！

「小さくては」→「小さくとも」→「小さいからこそ」  
(過去形) (現在形) ((近)未来形)

### Ⅲ. 新たな戦略としての「小さな拠点」

#### ■ <補足>新しいコミュニティの性格

- ①総合性(文字通り「小さな自治」「小さな役場」)
- ②二面性=自治組織でありながら経済組織の側面も持つ(共同売店、ガソリン・スタンド、居酒屋、特産品開発……)
- ③補完性(集落←<補完>→新しいコミュニティ)  
・集落・町内会=「守り」の自治  
←→新しいコミュニティ=「攻め」の自治  
⇒※集落と新しいコミュニティの重層化  
(集落・町内会の代替組織ではない)

### Ⅲ. 新たな戦略としての「小さな拠点」

##### ④革新性

- ・集落の「1戸1票制」の限界を意識し、「新たな仕組み」の構築を企図

※新しいコミュニティ=手作り自治区

・住民が当事者意識をもって、地域の仲間とともに  
に手作りして自らの未来を切り開くという積極的な取り組み

### Ⅲ. 新たな戦略としての「小さな拠点」

#### ■「小さな拠点」の機能

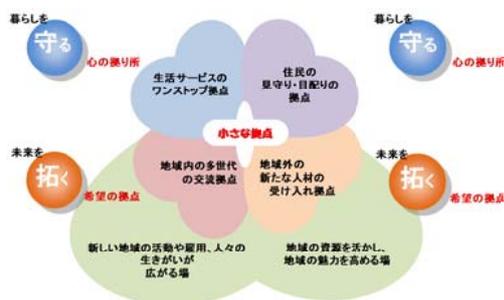
<暮らしの安心を守る機能>=守りの機能

- ①生活サービスのワンストップ拠点
- ②住民の見守り・目配りの拠点

<未来を拓く機能>=攻めの機能

- ①地域内の多世代の交流拠点
- ②地域外の新たな人材の受け入れ拠点
- ③新しい地域の活動や雇用、人々の生きがい  
が広がる場
- ④地域の資源を活かし、地域の魅力を高める場

### Ⅲ. 新たな戦略としての「小さな拠点」



※大きな安心と希望をつなぐ「小さな拠点」

25

### Ⅲ. 新たな戦略としての「小さな拠点」

#### ■課題

- ①ハード(空間整備)とソフト(コミュニティ再生)の調和
- ②ハード(空間整備)
  - ・施設の複合性(補助事業の「壁」)
  - ・集落-拠点間のアクセス
- ③ソフト(コミュニティ再生)
  - ・「束ねる人材」が重要
  - ・「利害フリー」の外部人材の活躍場面

26

### Ⅳ. おわりに

### Ⅳ. おわりに一確認したいこと一

☆原点は「地域づくり」=「小さな拠点」は手段

＜ある地域リーダーの言葉＞  
仕事や空き家が流動化しないから、若者がこの地域には来ないという行政担当者に対して・・・

「地域を好きになったら若者は自分で仕事を探し、作りだす。そんなことではなく、どれだけ魅力的な地域を作れるかが問題だ」  
(和歌山県那智勝浦町色川地区・原和男さんー地域の4割が新住民)

27

28

(3) 事例報告 ①大宮集落活動センターみやの里 (高知県四万十市)

竹葉 傳 (大宮地域振興協議会 会長)



## 2 大宮地区の概要

▼大宮地区…上、中、下の三集落

▼人口と世帯

平成26年1月1日(住基より) …135世帯、285人 高齢化率49.5%

▼農家戸数54戸(専業農家19戸)※H22農林業センサス

主な作物…露地野菜(ナス、シシトウ、ナバナ)と水稻、ユズ

▼店舗・ガソリンスタンド(大宮産業)、その他商店は酒屋以外なし

▼大宮郵便局、診療所出張所(週2日)

▼中学校(S53廃校)、小学校(H23休校)、保育所(H21廃止)

▼コミュニティ…3集落の自治会活動、大宮地区分館活動、  
老人クラブ、婦人会の活動

▼その他 ライスセンター、あったかふれあいセンター



旧小学校



郵便局



診療所



ライスセンター



3

## 3 (1)「株式会社大宮産業」の設立

【経過】

H16年12月 JA高知はた大宮出張所の**廃止案浮上**

H17年 2月 住民による**存続運動を開始**(署名、農協利用運動など)

H17年10月 廃止反対の住民運動をするも**廃止が決定**

H17年12月 「生活に困る」という住民の声を受けて**農協事業継承委員会を設立**  
運営方法等について検討を開始

H18年 3月 大宮地区住民約8割が**合計108戸700万円を出資**し、株式会社設立へ

H18年 5月 **「株式会社大宮産業」が発足。**

JAの引き上げと同時に店舗と給油所を運営開始

◆H18年5月…みんなで作った「株式会社 大宮産業」発足！！

店舗・給油所の外観



店舗内の様子



給油所の様子



4

### 3 (2) 大宮産業の取り組み

#### ①アドバイザー会議の設置



・宅配、ポイントカードの導入  
・イベントの開催 などの提案

#### ②宅配サービスの導入・充実



#### ③大宮米の販売



地元の「大宮米」を地域外に流通販売

#### ④談話スペースの設置



#### ⑤交流イベントの開催



「土曜夜市」「感謝祭」イベントを企画実施

### 3 (3) 大宮地域の現状と課題

～大宮産業設立から5年経過して……～

#### ■大宮地区の人口推移(H18～23)

大宮地区	H18	H23	増減 (H23-H18)
人口	340	294	△46
世帯	138	133	△5
生産年齢人口	171	139	△32
(率)	50.3	47.3	△3
高齢者人口	146	140	△6
(高齢化率)	42.9	47.6	5

※生産年齢人口:15歳以上65歳未満、高齢者人口:65歳以上

■人口:  
5年間で46人減少=△9人/年

■生産年齢人口:  
5年間で32人減少=△6人/年

■高齢化率:  
5年間で5%増

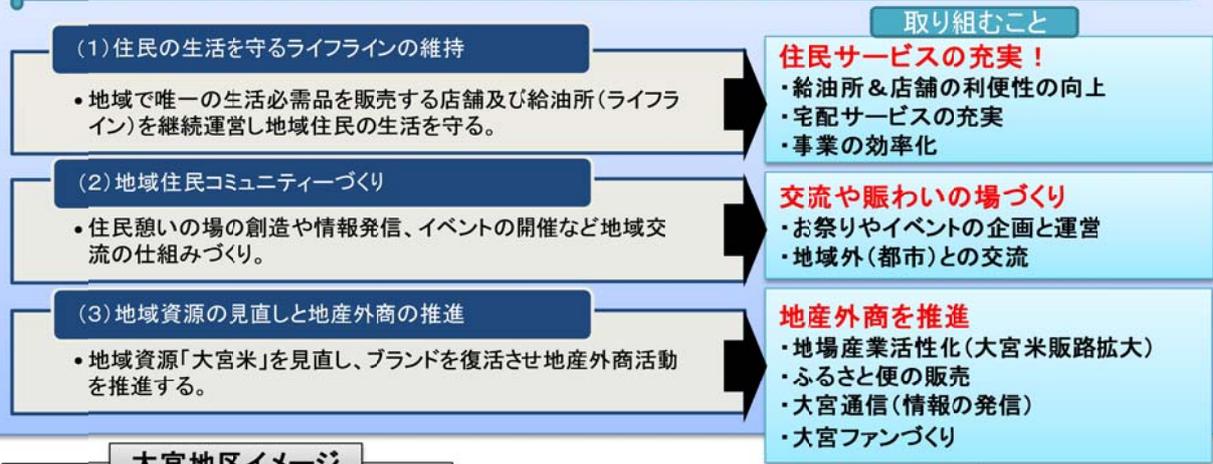
#### ■将来への不安



### 3 (4) 住民の生活を守るために

～大宮産業の存続と地域のためにできること～

「将来、みんなが安心して暮らせる地域づくり！」 by 大宮産業



大宮産業だけではなく地域全体、みんなで地域の課題や住民の不安をもう一度整理し「支え合いの仕組み」を再検討しよう!

### 4 地域で話し合いの場づくり

#### (1) 集落活動センター設立までの経過

平成23年	11月～	・大宮産業役員、地区役員が集落活動センターについての勉強会・協議
平成24年	3月～6月	・各地区、各団体への説明
	6月	・大宮産業株主総会にて、集落活動センターの取り組みを進めることを決定
	7月～9月	・各地区、各団体でワークショップの開催
	10月	・各団体代表者会議にて検討組織の立ち上げ決定
平成25年	11月～	・各部会、戦略会議にて課題整理・取り組みの検討
	1月	・「大宮地域振興総合プラン」の作成 ・「大宮地域振興協議会」の設立
	2月～	・協議会(部会等)で具体的な取り組み事業計画づくり ・25年度事業取り組みスケジュールの決定
	5月	・大宮集落活動センター「みやの里」の開所

※補助事業の活用: H24年度 過疎集落等自立再生緊急対策事業(総務省)  
H25年度 高知県集落活動センター推進事業費補助金(高知県)

ありがとうございます!!

## 4 (2) 住民意見の集約(WS)

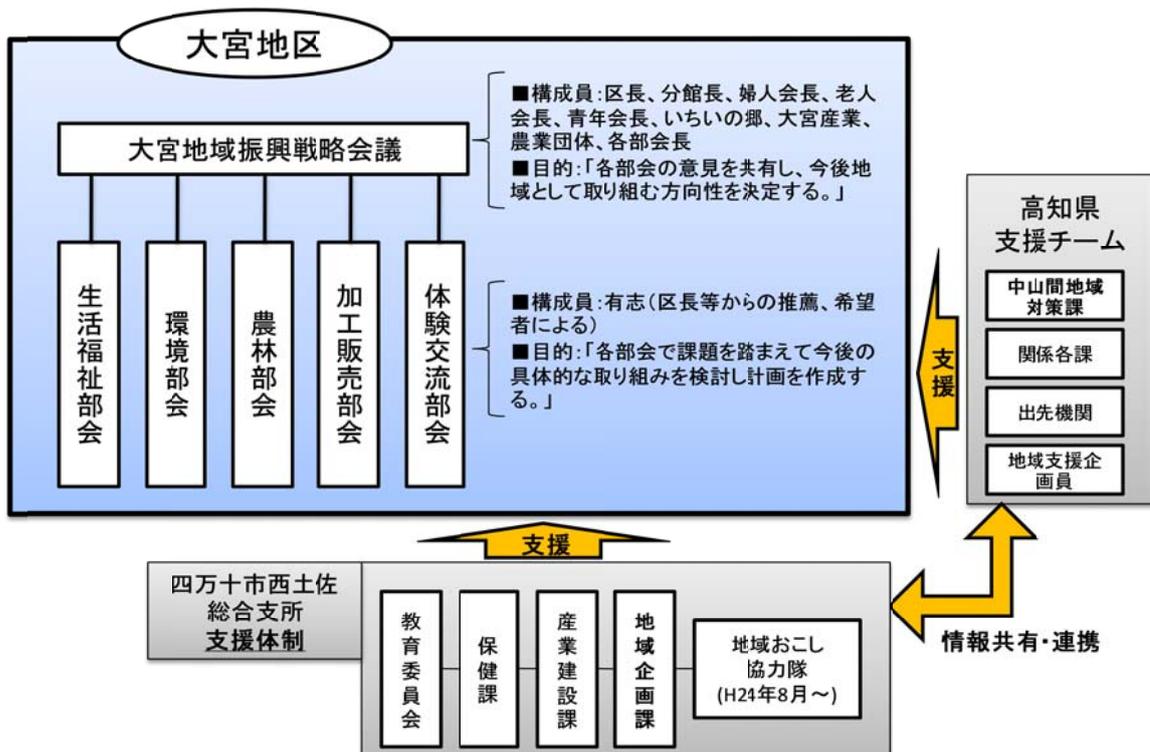
- 内容 1 集落活動センターについての説明(具体的な事例)  
 2 情報や意見の共有  
 3 「困っていること、不安なこと」「大宮自慢」「将来こうだったらいいのに！これしたい！」の3項目について、ワークショップで意見を集約

日付	会場	対象者	参加人数
7月20日	大宮上集会所	高齢者	14
7月27日	大宮生活改善センター	大宮中婦人	8
8月2日	大宮生活改善センター	若者	10
8月7日	大宮上集会所	大宮上婦人	12
8月31日	大宮下集会所	全世帯	11
9月5日	大宮生活改善センター	老人クラブ	15
9月27日	大宮上集会所	世帯主	10
9月28日	大宮生活改善センター	世帯主	15
合計			95



9

## 4 (3) 検討組織の立ち上げ



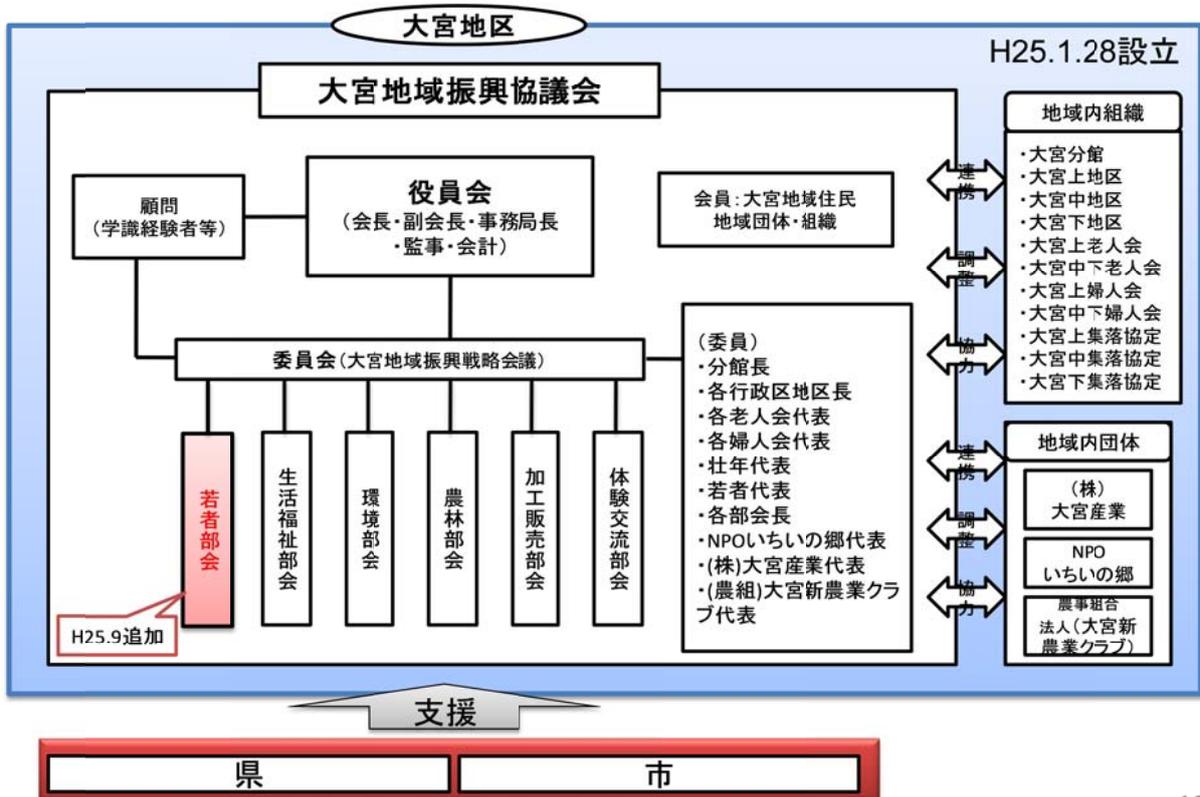
10

## 4 (4) 住民ワークショップの意見整理

番号	大宮の課題・不安の項目	意見数	番号	大宮の良いところ・自慢の項目	意見数	番号	大宮の将来・したいことの項目	意見数
①	集落活動サポート	28	①	人	29	①	人口増、交流	36
②	生活支援サービス	37	②	物、施設(在ったもの)	15	②	産業振興・雇用	50
③	安心・安全サポート	36	③	冠婚葬祭(集い)	40	③	生活関連	14
④	健康づくり	4	④	自然環境	43	④	集落等の活動	23
⑤	防災活動	11	⑤	食	29	⑤	福祉、防災、安心	15
⑥	鳥獣害被害対策	5	⑥	その他	15	⑥	その他 地域活性化	55
⑦	交流・定住サポート	12	合 計		171	合 計		193
⑧	農産物等の生産・販売	21						
⑨	特産品づくり・販売	2						
⑩	その他 後継者問題	28						
⑪	その他 雇用問題	20						
⑫	その他 教育保育	12						
⑬	その他	16						
合 計		232						

11

## 4 (5) 大宮地域振興協議会の設立



12

## 4 (6) 【大宮地域振興総合プラン】～支え合いの仕組みづくり～



## 4 (7) その他の取り組み

- 講演会の開催(H24年度3回)
- ふるさとインターンシップ(集落点検H24年9月)
- 集落活動センター等各種研修会への参加
- 移住体験ツアーへの協力(H25年3月 西土佐青年団主催)
- 大宮ニュースの全戸配布(H24年11月～毎月配布)
  - ・集落活動センターの説明、スケジュール、ワークショップの意見
  - ・部会、戦略会議の開催案内、話し合い内容の報告
  - ・交流イベント情報など

講演会



インターンシップ(集落点検)



移住体験ツアー



# 大宮集落活動センター「みやの里」の開所 H25.5.26



15

# 大宮集落活動センター「みやの里」 はじまる！・・・6月9日：「田植え体験」



16

大宮集落活動センター「みやの里」  
はじまる！・・・7月1日～「野菜の庭先集出荷」



17

大宮集落活動センター「みやの里」  
はじまる！・・・加工品開発 コスモス 竹林整備、  
お助け隊etc



集落活動センター みやの里戦隊  
お助けレンジャー

まだまだこれからです！  
ご指導、ご支援よろしくお願いします！

18

(3) 事例報告 ②社会福祉法人ふれあい五箇（島根県隠岐の島町）

池田 眞理香（社会福祉法人 ふれあい五箇 施設長）

1. 最初、どういふふうが始まったか？

# ふれあい五箇はどこ…



## 「断らない福祉」の姿 を目指して

### 【私達の志】

- 私達は、誰もが住み慣れた地域の中で  
当たり前暮らししていける社会の実現を  
目指しています。それが幸せなことだと  
思います。
- その当たり前の暮らしを求めるのに、さ  
まざまなハンディキャップを持つ方々の支  
援を行っていかうとするのが、私達の志  
です。

## 2. 職員の働き方の合わせ技





木工



園芸



折り紙



割烹



配食



移送



子ども祭り



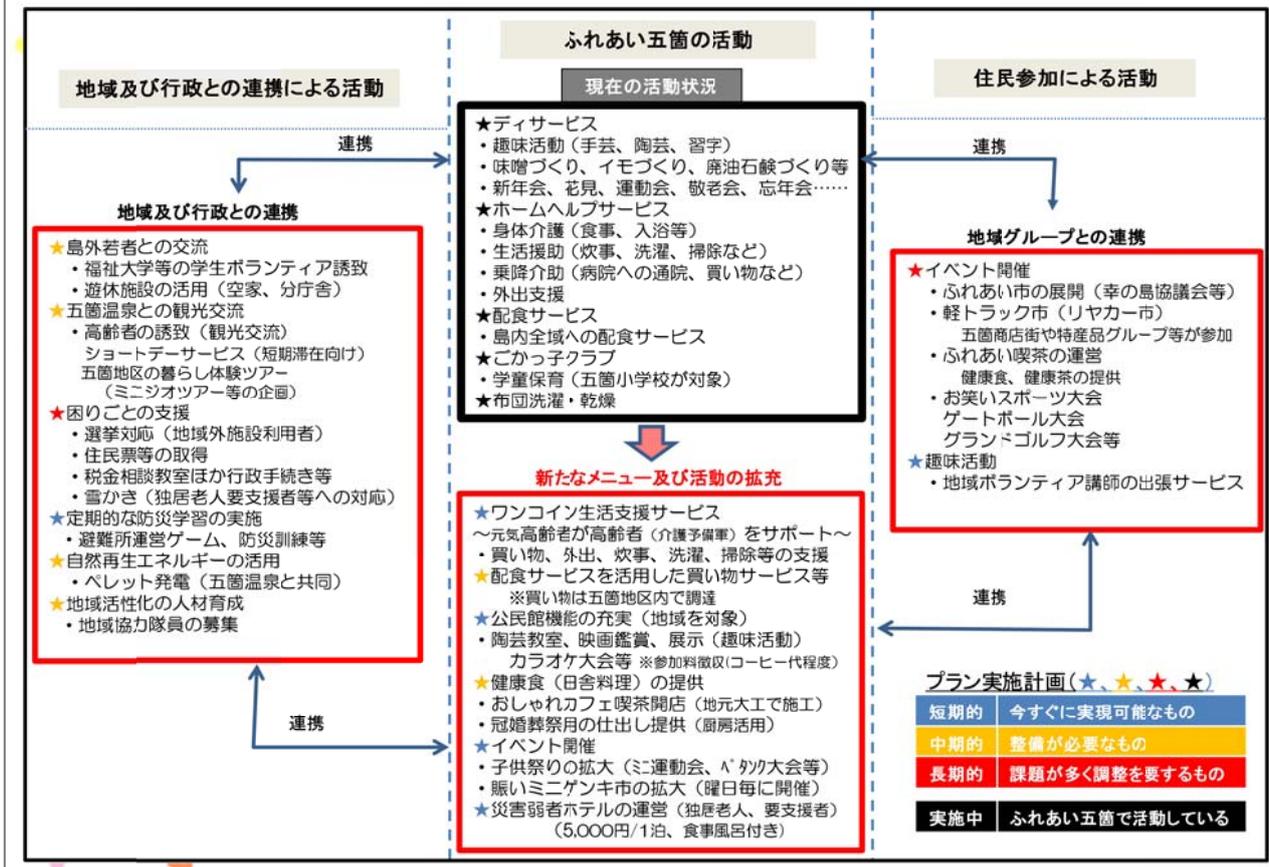
### 3. これからどういうふうに進めようとしているか？



## 【これから】

- モニター調査により地域団体(検討会構成団体)とプランづくりを行った。
- これからは、地域全体(団体、個人、行政)に取組をひろげながら、一步一步、プランを進めていく。

### 小さな拠点づくり プラン(案)



### (3) 事例報告 ③川西郷の駅づくり推進委員会（広島県三次市）

平田 克明（川西郷の駅づくり推進委員会 委員長）

#### 1. 川西地区の現況（2014年1月1日現在）

- 人口 1,204人（昭和35年3,500人） ●高齢化率 43.9%
- 世帯数 484戸 ●集落数 5 ●面積 38.8km<sup>2</sup> ●人口密度 31.0人/km<sup>2</sup>
- 川西小学校の児童数 37名

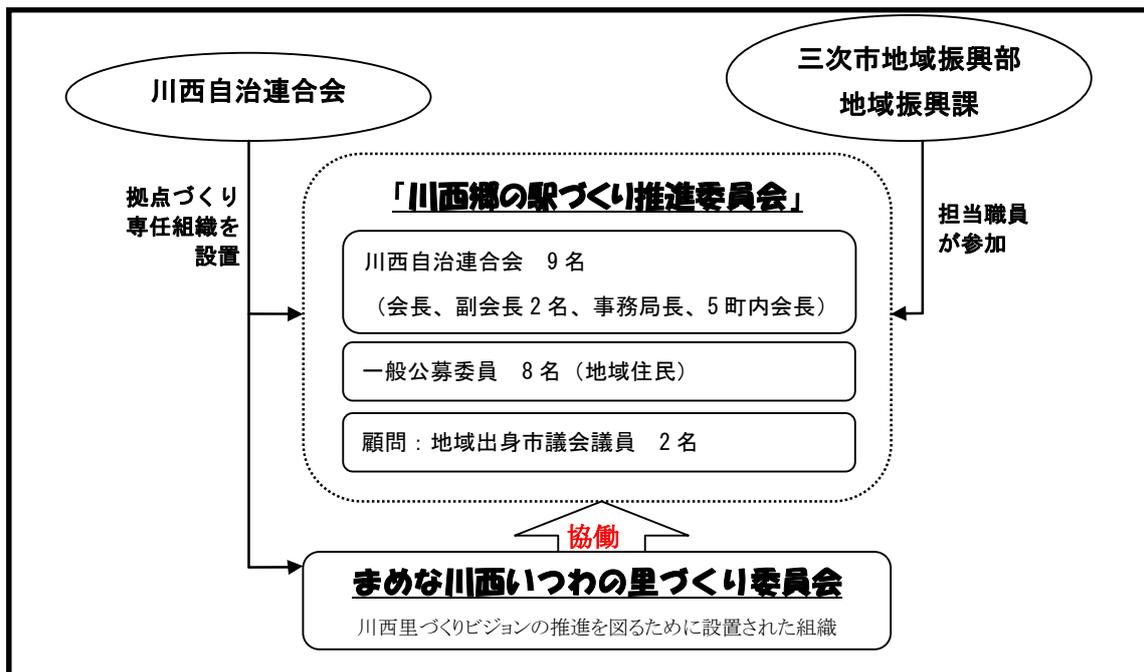
#### 2. 継続的な自治組織での取り組み（組織、計画づくり）

- 2004（平成16）年 川西自治連合会発足
- 2006（平成18）年 『「まめな川西いつわの里」づくりビジョン』策定
- 2009（平成21）年 「（仮称）農村まるごとミュージアムいつわの里広場」基本構想作成
- 2010（平成22）年 軽トラ朝市開始
- 2011（平成23）年 川西地区拠点整備検討資料作成（専門コンサルタントとの共同研究）

#### 3. 「郷の駅」構想との出会い、「小さな拠点」参画

- 2012（平成24）年 6月 川西郷の駅推進委員会発足
- 2012（平成24）年 9月 「郷の駅」提唱者を囲む研究会
- 2013（平成25）年 1月 三部会発足（組織運営・サービス・物販）  
ふるさと新春里づくり講演会「故郷の未来と『郷の駅』～中国山地の現状から～」
- 2013（平成25）年 3月 京都府南丹市道の駅「美山ふれあい広場」および岡山県哲西町道の駅「鯉ヶ窪」への先進地現地調査を実施
- 2013（平成25）年 9月 国土交通省 集落地域における「小さな拠点」づくりモニター調査地域に選定される

#### 4. 地域ぐるみの検討体制



## ■ 3つの専門部会の内容

- 1) 組織・運営部会 人をつなぐ～地域密着住民参加～  
郷の駅全体の運営・調整・組織機能づくりを担当
- 2) サービス部会 暮らし・命をつなぐ  
金融、診療所、児童クラブ、市役所・農協出張所、輸送など地域サポート、小さな公共サービス、地域防災拠点機能づくりを担当
- 3) 物販部会 道をつなぐ  
農村コンビニ、農産物直売所、石油・EV・薪ステーション、加工販売など、道路サービス・地域関連産業機能づくりを担当

## 5. モニター調査事業における取り組み

### 1) 組織運営部会担当

- ・地域住民ヒアリング…5町で実施
- ・建設予定地地権者、関係者、周辺住民ヒアリング
- ・住民アンケート…960部配布 有効回答数 706部 回収率 73.5%
- ・郷の駅研修会  
講師：藤山浩氏 研修タイトル：『「小さな拠点」忘れてはいけない勘所』
- ・郷の駅運営に関するワークショップ  
アドバイザー：道の駅鯉ヶ窪アクティブ哲西 代表取締役社長 水上真一氏
- ・先進地現地調査…11月と12月に実施
  - ①NPO法人ノーソンくらぶ（大分県中津市邪馬溪町）
  - ②槻木交流センター（大分県中津市山国町）
  - ③㈱大宮産業（高知県四万十市）
  - ④集落活動センター北郷（高知県四万十市）
- ・女性ワーキンググループによるワークショップ
- ・情報発信ワークショップ（若者を中心に）

### 2) サービス部会担当

住民アンケートの結果、ニーズが高かった配送・送迎・集荷及び見守りを組み合わせたサービスの構築を検討中。

### 3) 物販部会担当

- ・ワークショップ（3回実施）
- ・現地調査
  - ①庄原市神石高原町 道の駅さんわ 182ステーション
  - ②島根県雲南市加茂町 加茂遊学ファーム

### 4) 里づくり委員会担当事業 試行的取り組み

- ・軽トラ晩方市…平日と日曜の2回開催 消費者ニーズの把握
- ・伝統的地域の食材を使った郷土食開発と試作品販売

## 6. 「小さな拠点」に込めたいもの・今後の展望

## (4) パネルディスカッション 「小さな拠点」がつなぐ手作りの地域運営

コーディネーター：藤山 浩（島根県中山間地域研究センター研究統括監）

### パネルディスカッションの流れ

#### テーマ 「小さな拠点」がつなぐ手づくりの地域運営

##### ○導入（論点整理）

##### ○論議の柱1：なぜ「小さな拠点」か？

～「小さい」ことの可能性、今までの「大規模システム」の限界と補完

##### ○論議の柱2：「小さな拠点」を具体的にどう作る、運営？

～そして「次世代の定住」につなげるか？

<論点1>：小さな拠点の作り方、運営手法の具体論～「合わせ技」など

<論点2>：次世代の定住を支える拠点としての取り組み、可能性

##### ○論議の柱3：「小さな拠点」を支える制度、行政のあり方と今後の展望

<論点1>：従来の「規模の経済」と「縦割り」の弊害、今後の進化方向

<論点2>：今後の抱負、展望 ～今から、それぞれの地域で踏み出す一歩とは？

##### ○まとめ ～今後の全国展開へ